陸奥新報　2019 年 10 月 28 日（月）12 面掲載

文芸時評　斎藤三千政

郷土文学に新たな視点

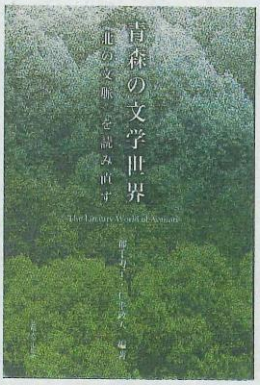
郡千寿子・仁平政人編者『青森の文学世界〈北の文脈〉を読み直す』を読んで

本書は400ページを優に超える大著だ。しかも10名からなる執筆者の論展開が鮮やかで、実に読み応えがある。さらに各執筆者が俎上に載せた郷土の文学者とその作品に、深い理解と愛情を込めて読み手に伝えているゆえに、読み終えて、いま、感動の余韻に浸っている。

――本書は、青森県出身の文学者のうち八名を取り上げ、多様な観点からのアプローチを通して、その文学の意義・魅力をとらえることを試みた論集である。……

編者の仁平政人は〈はじめに〉のなかで、こう述べている。そしてこうもいうのだ。その8名の「作家・作品に対する見方を更新し、その世界を新たに辿るための道筋や文脈を提示するものである」と言い切る。当方がいたく感銘を受けた理由は、あるいはここにあったのかもしれない。

10名からなる執筆者が標的にした文学者は、陸羯南（舘田勝弘）、佐藤紅緑（山田史生）、秋田雨雀（尾崎名津子）、葛西善蔵（竹浪直人）、高木恭造（ソロモン・ジョシュア・リー）、石坂洋次郎（森英一・郡千寿子）、今官一（仁平政人）、三浦哲郎（鈴木愛理）、そして「青森文学案内」（櫛引洋一）である。



「青森の文学世界〈北の文脈〉を読み直す」

執筆者は、その対象とした文学者を、長い時間をかけて追跡する。そして、その成果に、さらに新しい知見を加えながら、その研究を進化させていく。それゆえに読み手は、強い刺激を受けることになるのだ。

なによりも論者の中には、原稿用紙にして70枚から90枚に上る量の論考を載せているだけではなく、その〈注〉が非常に詳細にわたって記述されているのがすばらしい。なぜなら、文学の「世界を新たに辿るための道筋や文脈を提示」していると受け止めることができるからだ。

しかしながら、小欄はその8名の文学者すべて触れる余裕を持ち合わせていない。まことに勝手ながら、当方のまったく個人的な理由から、尾崎名津子と鈴木愛理のお二人の執筆者に少しだけ触れたい。

尾崎名津子は、雨雀や、特に県出身の文学者たちが、どのような行動や発言をしていたかに、興味・関心があったゆえに購入したのである。それゆえ、尾崎名津子の論考には、深く共鳴するところがあった。

ところで『月刊東奥』（1947年1月）「春季文藝特輯」は、執筆者も驚いているが、すごい特集をしている。巻頭言は太宰が「地方誌の『月刊東奥』に頻繁に寄稿していたことは注目に値する」と述べ、「これまでの秋田雨雀研究においてカウントされていなかった文章を掬いとることができる」だけではなく、「雨雀が敗戦直後の青森の文化・社会・政治に対し、どのような影響力を発揮していたのか、どのような位置にいたのかを、より鮮明に見ることができる」というのだ。つまり雨雀という作家に対する「見方を更新」するだろう、というのである。

個人的な理由というのは、当方もその『月刊東奥』の【戦後版】復刻版全4巻を買い求めていたことだ。終戦直後の青森県の様子や、特に県出身の文学者たちが、どのような行動や発言をしていたかに、興味・関心があったゆえに購入したのである。それゆえ、尾崎名津子の論考には、深く共鳴するところがあった。

ところで『月刊東奥』（1947年1月）「春季文藝特輯」は、執筆者も驚いているが、すごい特集をしている。巻頭言は太宰治全集〉には収録されていない。しかし、全集を持たない作家・評論家などの資料調査には、この復刻版は、まことに貴重だ。

さて鈴木愛理は、三浦哲郎の短篇小説「盆土産」について論究している。三浦作品が中学校・高校の国語教科書に23作も採用されていることにも一驚を喫するが、「盆土産」は長きに渡って教材として読まれているという。それにしても鈴木愛理の「教材研究」は、すごい。徹底している。原稿用紙にして約90枚の論考は、10名の執筆者の中では群を抜いている。

鈴木愛理は「盆土産」について「語りの特殊性、方言の使用、母の不在など、読み深める鍵をみつけやすい作品でありながら、それらを合わせてどう解釈するのか、読みを統合していくことが困難な作品でもある」と分析している。

紙幅が尽きたようだ。編著者の郡千寿子の「本書は、私を『青森』にいざなってくださった多くのご縁ある方々へのご恩返しの意味をもち、ひとつの節目となるものです」の一文から始まる、本書の「あとがき」を読んで身が震えた。20年前に青森空港へ降り立った日から今日まで、いかに多くの人々からお世話になったかを、情感のあふれる筆致で描出されているからだ。

（弘前ペンクラブ会長）

※「青森の文学世界〈北の文脈〉を読み直す」は四六判、418ページ、3000円+税。弘前大学出版会発行

※この記事は陸奥新報社の提供です。
[問合せ先] 弘前大学出版会
hupress@hirosaki-u.ac.jp
この画像は，当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。